

平成26年度の学校評価

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
本年度 重点目標	1. 全校生徒の学力向上 2. 教員の授業力向上 3. キャリア教育の推進 4. 基本的な生活習慣の確立 5. 部活動の活性化と強化 6. 地域との連携・交流の推進 7. 生徒・保護者との信頼関係構築			
教務	基礎学力の定着 授業改善の取り組み 業務の効率化	基礎学力指導の実施 実力試験の有効活用 家庭での学習習慣定着 研究授業、校内公開授業の実施 保護者対象公開授業の実施 教科会の活性化 手引き等書類の充実	B B B A A C B	保護者対象公開授業を実施した。これをもとに授業の改善、保護者の学校理解をより一層進めていく。教科内での協同意識や連帯は感じるものの、教務部が他教科間とのパイプ役となりより活性化させる。
情報管理	学内コンピュータネットワークの運営・保守・管理	ネットワークの保守・管理 サーバ類の保守・管理 情報機器の保守・管理 各種ガイドライン、マニュアルの作成、整備 各種データの作成・管理 一斉配信メールの活用 新規システムの検討・更新	A A B C B B B	ネットワーク管理及びサーバ管理においては、不具合が発生した際の早急な復旧作業など十分な対応ができた。情報機器の保守、管理については、新しい貸出表を作成して効率化を考えた。各種ガイドラインについては、古いガイドライン・マニュアルについては見直しが必要。一斉メールにおいてはインフルエンザや緊急メールの配信など活用できた。新規システムの検討においては様々な情報を収集している。
総務	安心・安全で豊かな学校教育環境の整備 経費節減の啓発および具体的な実施 災害対策の推進	正しい校舎利用の啓蒙・啓発 環境美化、施設の維持・管理 計画的な備品調達 経費節減(省エネ、節約) 消火器設置場所の整備 来年度行事予定の見直し 災害対策の推進	A B A B A A B	近年、校内の環境美化は進んでいると思われるが、清掃管理が困難な箇所にも意識を向け、改善するよう意識を高めていく必要がある。防災に関しては、来年度耐震工事(南館)を予定しており、それによって校舎の耐震工事が完了する。避難訓練を実施してはいるが、生徒一人ひとりの防災に関する実践的な知識を深めるよう、啓発に努めていくことが大切だと考える。
進路指導	普通科総合進学コース、福祉コース、スポーツアクトコース、情報ビジネス科、それぞれの特性を生かし生徒一人一人の進路希望の実現を図る。	3年間系統だてた進路ガイダンスの実施 各学年一人当たりの担任による複数回の個人面談の実施 『進路の手引き』など内部・外部の情報誌を有効活用 保護者対象進路説明会や保護者会などで家庭への進路情報の提供 職業観を高めるためのインターンシップの実施 進路指導室の有効活用	A A B A B A	生徒の発達段階に応じた進路指導を行い、各分掌・学年との連携を取りながら進めた。全教職員による日常的な進路指導の必要性を今後も絶えず確認して、さらに各連携を強化していく必要がある。また、希望進路実現のために、基礎学力定着に向けた取り組みを進める必要がある。

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
生徒会	行事の計画的運用とさらなる活性化 生徒会の認知度をたかめる 部活動の活性化 ボランティア活動の推進	各行事の要項の提示を早くする	C	各行事ごとの要項作成に早く取り組んだが、生徒会顧問の指導が行き届かず、生徒の議論が長引いたために昨年度よりもテンポが遅れた行事もある。しかし、生徒は議論を重ねれば重ねるほど色々なユニークな提案が出てくるので、難しいところではあるが、新役員当選後直ちに引き継ぎを進め、前役員と新役員とで議論をし、要項作成の始動を早くするようにしていきたい。代議員会では、体育祭の応援合戦について意識調査をした。この件については、クラスの意見をまとめ生徒の意見として、生徒会長が学校祭実行委員会へ提案した事が活性化の事例としてあげられる。しかし、類型によって時間の制約があるので、昼休みの短時間に代議員会をせざるを得ない。この物理的制限は大きなハードルである。これを克服するには、生徒一人一人が生徒会活動に興味を持つことが必要である。来年度も引き続き全校生徒と情報を共有できるように、情報発信を強化していきたい。
		生徒会役員補助と次期生徒会役員育成のために、生徒会研修生を募集する	B	
		代議員会の活性化を図る、学校祭のクラス補助金の増額	B	
		生徒会新聞の発行数の増加、自主活動委員の募集	A	
		放送や掲示物での対外試合情報宣伝 部活動費の増額	A	
		できな祭および、こどものまちへの参加	A	
	中部善意銀行に関わるボランティア紹介および申請の指導	A		
生活指導	高校生としての自覚をもち、自己を知り、個性を伸ばすと共に、相手を思いやる優しい態度を身に付けさせる。それに対して教職員一人一人が厳しさと、愛情を基礎に信頼される生徒指導を行う。 遅刻者に対する指導を徹底し、遅刻者の減少に努める。 集団の一員としての意識をしっかり持たせ、他者に対するよき配慮(相手に嫌がることはしない。迷惑をかけない)を充分認識するように指導を行う。 SNSの正しい利用に関して啓発を行い、トラブルの防止に努める。	挨拶の励行、節度ある言動の実践	B	指導を行う教職員の意識統一が必要。そうすることで教職員の本気度が生徒へ伝わる第一歩となると考えられる。よって来年度に向け、もう一度指導内容を教職員全体で、再確認したい。保健室利用のデータを分析し、本校の特性に応じた対応を検討したい。現在、生徒同士のコミュニケーショントラブルが多いと感じているが、いじめ防止の為に、教員のアンテナを高くし、いつもと違うのではないかと感じた生徒の情報共有の機会を意識的に増やしていく。 生徒が利用するカウンセリングという意識から、教員も相談する体制・意識づくりが必要である。問題発生後ではなく、ちょっと気にかかる段階で、カウンセラーの立場からの状況判断、ベストな対処を知ることが大切である。
		制服の正しい着用	C	
		法や校則の厳守(規範意識の向上)	B	
		社会生活におけるマナー指導	B	
		貴重品管理の徹底	B	
		携帯電話、スマートフォンは、朝のST時必ず担任に提出させ、校内における使用も厳禁とする	B	
健康管理	日常の健康観察	保健室の利用状況の把握	B	
		カウンセラーの活用	C	
渉外	本校の認知度を高める 学校紹介リーフレット及び学校案内パンフレットの充実 体験会・説明会の充実	各学科・コースのPRの強化	B	体験会・説明会の参加者数は昨年度より上回ったが、推薦一般とも受験者数が減少した。今後は中卒者数も減少して行くため、より充実した学科・コースの内容とPR活動が必要である。
		本校認知用の学校紹介リーフレットと学校案内パンフレットの充実および活用	B	
		体験会・説明会等の行事への参加者数増加	A	
事務	サービス部門と位置づけ、内部・外部に対しサービス精神をもって業務に取り組む 事務室と職員室との連携と相互協力 事務の標準化・効率化	電話・窓口業務を通して学校のイメージ向上の貢献	A	本部や県担当者へのコミュニケーションを臆することなくもう一步突っ込んでやる必要あり。 業務改善でマニュアル化はよく口にするが、日常業務に追われてなかなか実現化していない。
		内部に対する親切で行き届いた対応	A	
		ホウ・レン・ソウをモットーに、組織のスムーズな運営への寄与	B	
		業務のマニュアル化を通じた標準化・効率化	B	

【評価基準】 目標の達成率 A:80%以上 B:60%~79% C:40%~59% D:40%未満